

志方西地区の先人たち

内海 敬十郎

Lesson

3

天保 4(1833)年 4 月 9 日、西牧に生まれました。

天保 9(1838)年、数え年 6 才の時に、父親の跡を継いで、大庄屋に命ぜられ、母に手を引かれその任命式に出たそうです。この大庄屋を 30 年間努めました。

この内海敬十郎がもっとも力を入れたのが土木工事と財政の立て直しでした。

安政 2(1855)年の奥の池の大改修、明治 16(1883)年の松の木谷池の築造などを手がけました。

松の木谷池築造の記録を見ると、財政の苦しい時代、利害などが発生する各村の協力はなかなか難しいことですが、民主的に意見をまとめ、忍耐づよく努力したことが分かります。

村民はその功績をたたえ、明治 24(1891)年 7 月に表徳碑を大歳神社(才の木神社)の境内に建てました。

明治 30(1897)年 1 月 27 日、65 才でこの世を去りました。

※大庄屋とは江戸時代、地方行政を担当した役人のひとつです。代官や郡奉行の下で数村の庄屋を支配していました。



表徳碑



松の木谷池

神吉 久太夫

現在の高砂市の伊保周辺に水を引くために原の大池を築いたといわれています。

神吉久太夫は才知に富み、よく公益を図る人だったそうです。魚橋村西蓮寺の正門や生石神社の能舞台を建立したそうです。また、米田村神爪村の東端にある生石神社の大鳥居には、延宝八庚申年孟春吉日(1680年)神吉氏久太夫貞信謹立とあります。



大鳥居

竹中 団次郎

志方大池の中堤を築いた人として知られています。

名門の家に生まれ、資産と名望があり、また国学や漢学にも明るかったようです。

公益事業のためにいつも貧乏していたと伝えられています。逸話として伝えられている話によると、毎年大みそかになると大勢の借金取りに頭を抱えていたそうです。しかし、明けて元日もなると、楽しくお酒を飲んでいました。

公益事業に生涯をささげた人でした。